常磐毎日新聞

三月十三日　夕刊

日刊

定價　一部金貳錢　一ケ月金五十錢　郵税共
廣告料　普通一行五十錢　特別指定一行七十錢
日曜　祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人　坂本光治
發行所　常磐毎日新聞社　電話　六三〇番
印刷所　常磐毎日印刷株式會社
（振替口座　東京　[illegible]）

天氣豫報
今晩は北西の風晴
明日は北西の風晴

非常時の春！
國策線上へ豚も登場
皮革代用の飼養熱が昂つて
産めよ殖えよの轉手古舞

非常時なれば豚にも國策の春だ！　やれ毛穴が大きいの何のと難癖をつけられてゐた豚の皮革が俄に國策線上へ登揚したのにつれて郡内各方部には豚の飼育熱が勃然と昂まり最近郡農會宛仔豚の分譲方を世話して下さいと連日問合せが殺到お蔭で同郡農會は文字通り轉手古舞の有様、目下管内の母豚を總動員して「産めよ殖えよ！」と大いに督勵これにつとめてゐるがいづれにしても生理的な問題だけに思ふやうには參らず何とか良い方法はないものかと嬉しい悲鳴をあげてゐる

酩酊歸宅の途中
右胸部を突刺す
衝突して口論の末に

小名濱町下町漁夫大野某（二七）は目下平署に檢擧され傷害罪で取調べを受けてゐるが同人は十日夜同町カフエー小野瀬方で飲酒歸へる途中出合頭に日本水素工場職工武藤勝治さん（三六）と衝突口論の末懐にしてゐた短刀で右胸部を突刺し全治四週間の重傷を負はせたものである

白衣の天使

平市　南町滿野平産婆看護婦學校長養子勝利氏妻イト子さんは大日本赤十字社福島支部の救護看護婦長を勤めてゐたがこの程白衣の天使として從軍することになり來る十七日午前十一時十分平驛發で〇〇に向け出發される

女子師範へ
磐女大量合格

福島女子師範學校の今年度入學試驗結果は十一日發表されたが磐女の合格者は左の如く十三名の多數に及んでゐる

鈴木トミ　鈴木スミ子　鈴木靜香　北郷春江　五十嵐松枝　村田良子　三森淸子　遠藤芳枝　鴨原フミ　矢部初枝　橋本フミ　阿部生子　渡邊せき子

謝禮金寄附

錦村　大字江栗字中田小宅守君（二三）は去る五日用達の歸途同村大倉地内で金十一圓四十九錢入りの蟇口を拾得屆出たところこの程落し主は同村字長子齋藤幸さんと判り謝禮金一圓五十錢を貰つたが時局柄私すべきでないとそつくり國防費に獻金した

營林署員
大陸へ

植田營林署員南會津郡大宮村大字山口出身馬場靖君（三〇）は滿蒙の大陸で活躍することになりこの程滿洲國に向つて出發したが同君は歩兵上等兵で先の滿洲事變に活躍した勳八功七級の帶勳者である

尙同營林署員山田卯太郎氏（四五）は去月下旬滿洲國和龍縣三道溝營林署出張所長に赴任したばかりでこの相つぐ大陸の選士出發に噂は持ち切つてゐる

激浪に煽られて
共榮丸大破沈沒
幸ひ死傷はないが
損害額約一萬餘圓

平地方は十一日夕刻來暴風雨化したが同夜十一時頃小名濱港に碇泊してゐた小名濱町字中坪立花雄七氏所有鰯あぐり網漁船第一共榮丸（二八トン）は激浪に煽られて船体を大破沈沒した幸ひ死傷者はなかつたが損害一萬圓餘圓、この他にも小破した漁船も相當あつた

少年の行方

茨城　縣東茨城郡小川町宮久保七郎兵衛さんは宍戸市醫師會館の給仕をしてゐた二男の參造（一八）が去る一月七日平市大町菓子製造業佐藤慶助氏方へ行くと家出したまゝ行方知れずになつたからと今十三日平署に搜索方を願ひ出た

釜戸の
諏訪祭

渡邊村釜戸諏訪神社の春季大祭は來る十七、八（舊二十七、八日）の兩日執行されるが國威宣揚並に皇軍將士の武運長久祈願祭がある筈で參詣人が殺倒するものとみられる、尙餘興には芝居其他がある

農試分場の
練習生募集

神谷農試分場では目下十四年度の練習生を募集してゐるが定員は二十名、修業年限一ケ年、年齢は十六才以上の男子で高等小學校卒業若しくはこれと同等以上の學力を有し將來自家經營に從事せんとする者である

勿來職工
組合の表彰

勿來町職工組合では十二日午前十時から地方有志參拾余名を招待恒例の太子講祭を催したが皇居遙拜、戰死者に默禱を捧げた後各來賓の力強い激勵の辭があつて出征遺家族慰問を決議し午後二時散會した表彰者左の通りである

△組合功勞者小牟子之吉△優良徒弟鈴木大作

入山炭礦
生活改善

入山炭礦では十二日午後一時から藥袋特高課長及び本田平署長を迎へ自治會館で生活改善講演會を催した

國防費獻金

植田　町字本町橋本屋履物店主島田儀一さんは金五圓、錦村大字中田椎名政雄さんは金二円五十錢をこの程植田署を通じそれ〲國防費に獻金した

團体貯金
感謝狀贈呈

既報—平郵便局では十一日午後四時よりマルトモホールに於て團体貯金等の取纏めに種々肝煎りを惜しまなかつた左記の諸氏に對し感謝狀を贈呈した

大和田忠良　川鍋孝藏　額賀廣次　樋口定敏　立枝信勝　味香啓次　日比野武雄　遠藤心光　叶多アイ　百澤易與　佐々木俊男　山田親徹　吉田伴吉　堀喜一　佐藤源吉　室内保太郎　本田勇治郎　鈴木正一　猪狩定與　山崎傳重　高久高　小田吉次　滑野キヨ　鈴木武男　河田梅吉　有賀重森　青沼錊太郎　篠山廉　千葉右近　赤津千里　坂内伊貞　正木貞二郎　服部甲　淺水成吉郎　酒井猶次　藤田榮助

輝く論功行賞！
石城郡關係者二名

今次事變名譽の戰死者に對する陸軍第八次論功行賞は十一日發表されたが地方關係では山田村出身騎兵少尉川原吹庸義氏が功六旭六に、田人村出身砲兵伍長楢田源治氏が功七旭七に叙せられた

功六旭六の殊勳に輝く川原吹少尉は現役から再役に志願滿洲國で石田部隊に屬し駐屯中昨夏六月十一日夜滿洲國三江省富錦縣永安屯の戰鬪に將校斥候に出で拔群の功績を收めて歸隊の途中敵彈に右胸部を貫かれ重傷を負つたが屈せずよく任務を果たし一切を部隊長に報告するとゝもに其場にばつたり倒れそのまゝ護國の鬼と化し皇軍の華と散つた勇士である

家庭は農業を營み祖父榮太郎さん（七五）と父武市さん（五九）母かめさん（五三）及び妻女のしづゑさん（三二）との間に長女央子さん（五）と長男甲君がある

何とも有難い御思召で地下の夫もさぞかし聖恩の有難さに感泣してゐることでせう、さつそく夫の靈に報告、長男も是非立派な軍人として夫の後をつがせ御國のため酬ひたいと思つてゐます

と妻女しづゑさんは雄々しくも感激に燃えてゐた

渡邊新場長と
會談二十分
（上）

小名濱支局通信

支局長　小野務平

縣立水産試驗場五十嵐氏が東京日々新聞の報導が餘りに秘密中の秘密を素破抜きをやつたのが動機で退職の機を早めた事は一面氣の毒にも感じられないでもないが早晩そうあるべきものとせば却つて時機を造つた點に於て雙方の爲めによかつたと見る事も或當を得たかも知れぬ

只後任の決定しない前に不意の辭職書が飛び出して多少縣が狼狽したかも知れないが一度はこうあるべき運命が落ちつく處に落ちついたと云ふ觀もないではない

處がこの不意打ちに遇つた縣當局では後任物色に少なからず奔命、帶に短し襷に長いと云ふ人物詮衡で案外暇を潰し去月一月上旬かに福井縣に居つた渡邊直人氏を迎へて場長に据へ茲に五十嵐場長に代る新場長が初めて出來た譯けで其人物がどんなで其抱負がどこにあるかは獨り當業者のみでなく聞かんと欲する處である、記者は五十嵐氏とは牆壁を撤した中に語り合ふ間柄で何時も無遠慮に雜談を願ふ事を常として居つた事を懷かしく今以て思つて居る

去る土曜日電話で場長が在不在を照會すると給仕さんが誰かゞ居つたと答へた、そして一寸待つと私が渡邊ですと云ふと電話にて立たれたのが渡邊新場長である事を知つた初對談の直前に於て此の態度に對して聊か好感を持つ事が出來る樣に感じた、電話で失禮ですがこれから一寸御目にかゝりたいですが時間はよろしいですかと聽けば結構何時でもお出かけ下さいと叮寧なる挨拶であつたので喜び勇んで試驗場へと足を早めた

（未完）

平市女青
十七日總會

平市聯合女子青年團の總會は來る十七日午前十時から平館に開かれるが終つて余興に映畫がある

英靈へと
戰地の送金

入山炭礦自治會々員大和田虎司君は今次事變勃發と共に出征各方面の戰鬪に參加赫々たる武勳をたてゝゐるが、この程護國の鬼と化した會員の英靈を慰めて下さいと戰地から金五圓を送附感激せしめてゐる

遍照講活動

小名　濱町遍照講では自性院住職竹本、淨光院住職久野地福院住職宮野氏等の指導で黑田三嗣、小野安右衛門、草野鶴吉、志賀コト、小磯レン、堀内カマの諸氏が幹事となり日支事變以來出征將兵への武運長久を祈つた御護摩札を贈呈し其他寒行や御詠歌行脚によりて得たる淨財を軍事後援會へ寄附する等奇篤行爲が多い陰暦正月十六、十七、十八の三日は自性院、淨光院、地福院に於て各其部落の出征遺家族の集會を需め殿堂裡に慰靈祭を執行し更に護摩札に祈を籠め之を出征將兵に贈呈する事に決しそれ〲其準備中で其費用も相當の金額に上る由

木炭同業
豫算を附議

濱三郡木炭同業組合では十九日午前十時から平團体事務所で評議員會、二十日午前一時から總會を開き新年度の豫算其他を附議するが豫算は前年度の一萬四千七百七十四圓に比べ多少減額する模様である

明日市葬を執行
西潟、大阿久兩勇士

既報—今次事變に出征各地を轉戰途に陣歿せられた故陸軍歩兵上等兵西潟知衛、同砲兵上等兵大阿久三郎兩氏の合同市葬は明十四日午後一時から平第三校講堂で擧行されるが、兩氏の略歴左記の如くである

（西潟上等兵）樺太散江郡散江村出生、昭和八年福島縣立農林學校卒業昭和八年徴集補充兵昭和九年四月朝鮮總督府遞信局工務課に奉職昭和十二年七月應召、鐵道守備に任じ同年十二月召集解除歩兵一等兵に進級、同十三年七月再び應召山西省掃蕩戰に參加各所に轉戰中病に罹り運城第二十師團第四野戰病院に於て陣歿同日歩兵上等兵に進級、當年二十七才

（大阿久上等兵）平市字長橋町出身平第一尋常高等小學校尋常科卒業昭和五年徴集第十九師團野砲兵第二十五聯隊に入營砲兵一等兵に進級除隊家事に從事昭和十一年八月昭和人絹株式會社職工に就職、同十二年九月應召、同十月三日上海上陸、上海戰を始め徐州大會戰に參加各地に轉戰中負傷陸軍野戰病院より上海廣島病院を經て高田陸軍病院に入院一月二十一日病歿同日砲兵上等兵に進級、當年三十才

平産看
卒業式擧行

平市南町平産婆看護婦學校第三十三回の卒業式は來る十五日午後二時から擧行されるが卒業生は左の如く産婆科が四十二名看護婦科が六十九名、合計百十一名である

（イロハ順）

△産婆科　伊藤美好　新妻澄子　富森智惠子　千葉照子　岡田タカ　大方ミキ　大竹菊代　大内ミネ　渡邊百喜枝　若林喜美子　藁谷ヤイ子　渡邊タネ子　賀澤千代　梶ミツ子　金成美千子　吉田イチ　吉田千佐子　横山シマ子　高瀬ムラ　永山チヨ　薄葉靜子　草野ムラ　久保木芳子　草野スワ子　草野アキ　柳内梅子　國分ツヤ子　阿部美津子　淺野與志　青木キミ　坂本フミ子　佐々木ヨシ子　酒井チエ子　木田恒子　柴崎綾子　鈴木キミエ　助川エイ　鈴木マサ子　鈴木マスヨ　鈴木政子　須藤タツ子　鈴木愛子

△看護婦科　五十嵐ミヨ　新妻英子　新妻澄子　星瀬智子　堀好江　富森智惠子　千葉照子　小貫マサ子　大方ミキ　大竹菊代　大内ミネ　渡邊百喜枝　若林喜美子　藁谷ヤイ子　渡邊タネ子　掃部關澄子　管野チヨ子　梶ミツ子　金成美千子　吉田イチ　吉田千佐子　横山シマ子　高瀬ムラ　高橋マサ子　永山キヨ　永山ハルヨ　村山サクヨ　薄葉ツネ　野崎オキミ　草野ムラ　久保木芳子　草野克子　草野スワ子　國井スミ　草野アキ　山崎ヨネ子　柳内サイ子　矢吹幹枝　松本トミ子　松本エイ子　松崎カツヨ　飼悦子　國分ツヤ子　阿部美津子　阿部トヨ　淺野與志　靑木キミ　佐藤つよ子　坂本フミ子　佐藤ミヅヨシ　佐々木ヨシ子　佐藤みあき　酒井チル子　三瓶トミ子　木田恒子　柴崎綾子　深谷いさみ　鈴木キミ　鈴木トヨ子　鈴木キミエ　助川エイ　鈴木マサ子　鈴木スズヨ　須藤タツ子　鈴木クニ子　鈴木愛子　鈴木キミ

小野少佐通信
舊恩師福尾氏
に宛た

鄱陽湖畔にて　小野四郎生

小名濱町の産んだ海軍將校の第一人者小野四郎少佐は上海事變以降三回の遠征に參加し曩きに名譽の負傷をなしたが一日の休養をもなさず剛毅沈着の資性能く其任を全ふした支那事變に際して又西征に參加の命あり目下揚子江遡江部隊の指揮官として〇〇方面に活躍中であるが小學校時代の校長たりし福尾伊太郎氏に對する切々の思慕禁ずる能はざるものあり此程恩師に寄せ來たる小野少佐の書簡を掲載し少佐の忘郷なし難い衷情の一端を語る事とした

拜啓、日に増し春めかしく相覺候折柄先生初め御家内皆様には御障りもなく御過し遊ばされ居申候や御伺申上候降小生儀任地着以來極めて頑健にて軍務に從事致し居り候間乍憚御安神下度候

扨て先達は躍進的發展途上の故郷の詳しき有樣細々とお知らせを戴き誠に難有厚く御禮申上候、海山幾千里遙か揚子江上流の戰線にありておもむろに故郷の發展の貌を偲びつゝ愈々繁榮隆昌を祈り居る次第に御座候

いつもの事にて甚だ申譯けなき次第に御座候へ共又後永々と御不沙汰仕り候　（未完）

JOHK

今晩の部

▽後六、〇〇　子供の時間　對話「新支那旅行」第三回蒙疆の卷　帝塚山コドモ會
▽後七、三〇　國民歌謠「大陸日本の歌」文部省撰　獨唱薗誠一、伴奏有元延
▽後七、四〇　講演「世界の大勢」伊藤正德
▽後八、〇〇　管絃樂序曲集

明日の部

▽後〇、〇五　箏曲、佐藤美代勢外一、「松上の鶴」二、八千代獅子、萬歳獅子合奏曲
▽後一、〇〇　傷病將士慰安會—仙臺陸軍病院宮城野原分院より中繼
▽後二、〇〇　講演—日比谷公會堂より中繼—五箇條御誓文奉戴記念日に當りて、內閣總理大臣男爵平沼騏一郎
▽後六、〇〇　子供の時間　不思議問答、子供のテキスト編輯部
▽後八、〇〇　音樂地理、ノールウエイ篇、東京放送管絃樂團
▽後八、四〇　青年の時間「新東亞建設完成の重責を荷ふべき青年諸君へ」大日本聯合青年團理事岡部綮
▽後九、一〇　立體講談　旭堂南陵

事務員募集

一、十六歳以上。男女を問はず
一、月給十五圓—三十圓
一、通勤し得る者、市内保證人を要す

右希望者自筆履歷書持參來店あれ。

平市田町
永山酒店
電話二〇七番

朝鮮 滿洲 **齒科醫師養成**

本年度（其前ニテモヨロシ）高等小學校卒業者ニシテ將來齒科醫又ハ技工師タラントスル者

二名募集（見習中手當及被服費ヲ給ス）

小名濱町　**鈴木齒科診療所**

父江口淸儀病氣療養中ノ處藥石効ナク今朝四時七分死去仕リ候間此段紙上ヲ以テ御通知申上候

追テ送葬ノ儀ハ來ル十五日午後二時自宅出棺海岳寺ニ於テ佛式ニ依リ相營ミ申可候

尙時局柄弔旗、供物、花輪等ノ儀ハ御辭退申候

昭和十四年三月十三日
四倉町
男　江口勇
親戚一同　江口伊六
江口軍二
友人總代　鈴木唯治
堀江新太郎
萬年瓦工業株式會社

三度笠
吉川延　作
瀧秋方　画

……（２０７）……
嵐の山　三

妙な侍が昨日からよくころげ込むので何となく氣味が惡いと宿の女中は感じた。

「なアお客さん」

と、女中は廊下で出逢つた松千代にはなしかけた。

「何？」

彼女の疑ひを含んだ目がかすかに動く

「一寸、一ぺん見て、おいでやす」

と、變の侍が寢てゐる部屋を指さした、松千代はそんな姿を見て笑ふ程、心の餘裕を持つてはゐなかつたのであつた。

「何あに、疲れたんでせう」

と、そのまゝ過ぎやうとして部屋の入口に脱ぎすてた單衣の紋が目についたのである。

生地はこん地に白くうかんだきつこうの花、自分の家の定紋がそれである。

彼女の足は、そこから先に進まない。そつと内部を覗いて見ると、かやの中に裸體の男がぐう〲といびきをあげてゐる。

顏が、はつきりわかりはせぬが、どうやら何處かで見た顏らしい。もしや兄の源十郎ではあるまいかと感電したやうに彼女の神經にふれたのであつた。

松千代はそつと、部屋に足を入れた。かやの外から、その男の顏を今一度凝視しやうとしたのである。

夜は明けはなれて、朝日が窓からさし込んでゐた。で、かやの内部はあかるい。

「源ちや」

眠つてゐても、さすがに武道に心得ある男と見えて、松千代の人の氣配に目をさました。

「あゝ、私が、兄さんぢやござ
[illegible]んか」

と、優しい女の聲に、裸體男はぢつと目をひらいた。

「ウン、お前か」

と、むつくり起きあがる。

「それにしても、こんな所で何をしてゐる」

松千代は夢のやうな思ひはするが、兄と自分と大助との關係とを考へて、兄と今こゝで偶然出逢つたことが、嬉しいのか、悲しいのか、自分ながら判斷の出來ない妙な氣持である。

「それよりも兄さんは何處においでになりました」

「俺か！」

といつて

「そのかやをはづしてくれ」

彼女は、かやのつり手をはづしてかやをたゝみ作ら、

「それでも、兄さん、疲れいてらつしやいませう。しばらく御やすみなさい」

「いや、しばらく疲た、これでいゝ、時にお前誰と、この宿へ來てゐるのだ」

「私一人」

「一人で？嘘つけ、一人で若い女がなんの必要があつて、こんな所へ出て來るかい」

「いえ、一人でございますわ」

松千代は微笑んだ。

この女特有の、淋しい自ら嘲けるやうな微笑であるが、兄の源十郎は、妹の顏など念頭にないのであらう。依然裸體のまゝで、煙草入をさぐつて、粉になつた煙草を煙管につめ込んでゐる。

「それより、この家は誰が死んだのか」

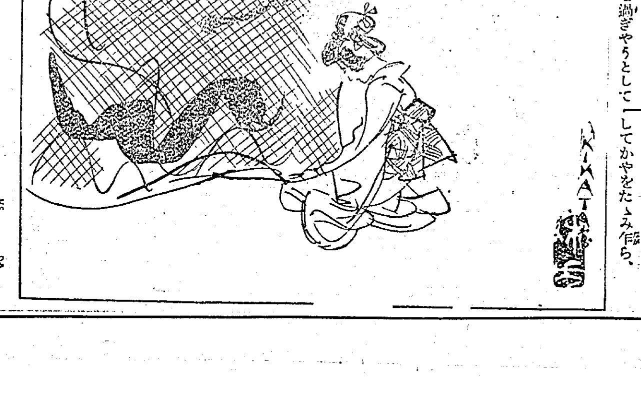
「エ、殺されましたの」

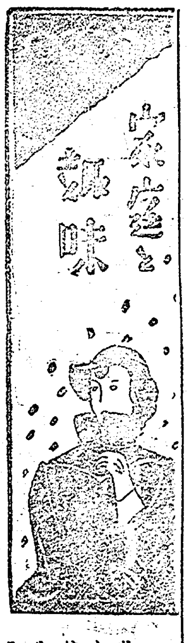
「殺された？一體何者が殺されたのぢや……」

流石に愕然とする。

「三河屋と仰しやいます」

「三[illegible]」





着物の結婚

常盤 夢部子

S嬢が結婚するとて挨拶に見えた時話したこと

S嬢は昭和某專門學校を卒業した所謂インテリ女性である。心から喜びの言葉を述べた私も次の瞬間にはたまらなく寂寥の念にかられたのである。「式服は出來たまではよかつたが着物をあらたに二十枚、羽織を二十數枚、これでも姉妹中では一番少くて後は借家とやら」

教養ある彼女は、結婚に際して衣の着物や物を望み欲する譯がないのだ。私は專門教育を受けた彼女なるが故に殊に腹が立つたのだ。世の若き女性の水準を內容的に、一歩でも二歩でも高めて行かねばならぬのが、インテリに課せられてる責任ではないか。

專門教育を受けた者は、少くとも事に處して事を判斷する力を養ふだけは出來ねばならないと思ふのである。

今日非難されてる知育教育の一つの不備をこの小さい問題の中に見たのである。

薄着で皮膚の鍛錬

好成績を上げた 裸體操・開放生活

風邪の豫防

皮膚を丈夫にすればば風邪をひかぬと云ふ建前から、私どもの學校では男子部全部のものが冬[illegible]のうちに

夏季から

冬季までの一年中の氣候の變化が體験されるわけです、その間出來る限りの薄[illegible]想以上の效果を收めてゐます、

この結果更に昨年は一月の數[illegible]時を利用し海拔四五〇〇尺と云ふ長野縣上す訪地方の高原に轉[illegible]二週間ではありましたが、特に選ばれたカゼをひきやすい虚弱兒童（小學生）十數名の「開放大氣訓練法」を試みましたが、これまた非常な好成績をあげました。

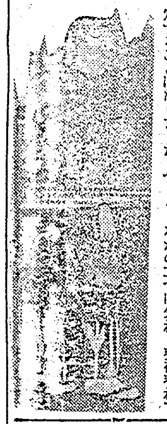
晝夜屋内

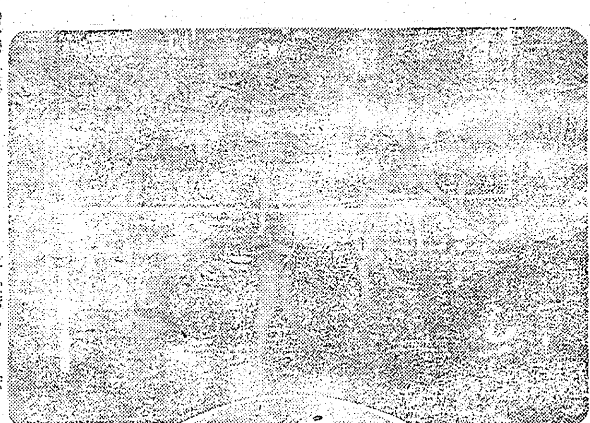
を開け放すと云つても、餘計な風を防ぐため各室、各入口にカーテンを使用、寢具は各自二枚つゞきの毛布一枚に敷きフトン一枚を用意し、さらに各自フトンの中には三〇ワットの電氣あんかを使用しました（このあんかは暖房ではなく零下十度以下になると睡眠がさまたげられるからです）これ位の高地になると、風さへなければ冬季でも日光は非常に強く、おひる前などでは裸體生活もできる位です、夜間の最低溫度となると零下の零下八、九度にまで下ることも決して稀ではなく、從つて[illegible]ろん夜間の開放も全開、四分の一開放二分の一開放の各二日間づつを經て、まつたくの開放生活に移りましたが、その間懸念した危險などはまつたくなく、全員無事故で最後まで何等の故障もなく終了されたのです。實施された結果の第一にあぐべきものは、當然體內の[illegible]を必要として、食慾（動物性蛋白質としては主に豚肉類採用）が旺盛になり

體重增加

が自然に行はれたこと、その付随事項として同時に偏食が改められたことです。第二には、日課のうちに運動としてスキー、登山、歩行の速度がとり上げられた結果、一般に肺活量（呼吸の大きさの最大限度）が增大し、呼吸器官を強健にしたほか、第三に皮膚面に近く血球が新生してそれだけ皮膚及び身體を強壯にすることが出來たのです。ですから一定の規律の下に行ひさへすれば、あへて高原生活をおこなはずとも向寒を利してするこの鍛錬、開放生活が特に虚弱兒童の體質改造に相當の役割をつとめることが分ります

（自由學園 池口[illegible]）





便利帳

ガソリンや油に燃つて火がぺり燃え始めた時はあはてゝ水をかけてはいけません、火鉢かカマドの灰を大急ぎでふりかければ消しとめることが出來ます

臺所廿訓

一、生活改善は臺所より
二、臺所は婦人の智慧の磨き場所
三、健康への鍵は臺所にある
四、臺所の不潔は主婦の恥
五、[illegible]の多い臺所には物[illegible]
六、やりませう臺所の利用を
七、一本のマッチを無駄にすな
八、臺所では火の用心
九、油斷の隙から鼠とさびが出る
一〇、經濟はまづ一本のマッチから
一一、料理上手が世帯上手
一二、時計を見ながら豫定に進め
一三、臺所用器は常に明確
一四、野菜や生魚の買物は朝へ[illegible]
一五、容器や引出しには名を明記
一五、汚水もの貯れば[illegible]
一七、冷藏庫內部は常に清潔・[illegible]
一八、[illegible]
一九、[illegible]
二〇、臺所に入れるものは光と[illegible]

奥樣讀本

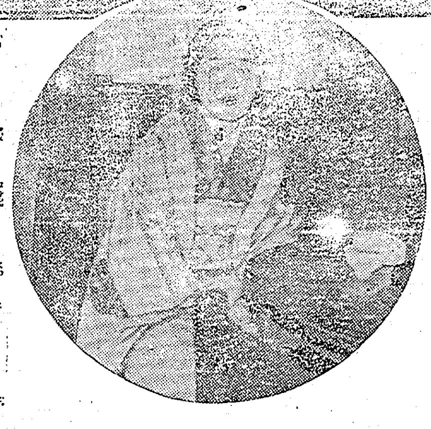
木製の火鉢のお手入れは

◇……木製の火鉢は、よく接ぎ目などがはなれて困りますが、此の場合にはチューブ入りのニカワを買つて、はなれた所につけニカワの乾くまで細紐でしばつておきますとよくつきます。チューブ入りのニカワは、このほか何でもそのまゝ家庭で出來ますから重寶です

◇……もし、このニカワを長く保存して口もとが硬くなつてゐる樣な事がありましたら、口もとを湯の中に入れて温めますと、やはらかになり、すぐ使へるやうになります

昭和お作法集

お茶の喫み方



家によつては、客に、日本茶を出し、さらに、コーヒー、紅茶を出しますが、普通の客の場合は、お茶とお菓子で十分です。さて、お茶碗の底に左手を添へると、よい姿になります。

お菓子は食べてもよく、食べなくてもよく、どちらも失禮にはなりません。以前は、食べぬ菓子を紙につつんで持歸つたり、持たせて歸らしたりしましたが、新儀禮ではそれをやめにしました。又、人を訪問の際の手みやげの必要はありません。

道路に灰をまく

◇凍つた道路のスベリ止め

◇…降雨の後などで、氣温が急にくだると道路がこほり、まことに危險なものですが、そんな時は灰をまくと、すべりを防げますし、怪我するやうな心配もほとんどなくなります

◇…すべつての轉倒は手足をくぢくだけでなく、時には後頭部を強打して腦震とうを起したりします、決して輕々には考へられません

「女子國民服」をめぐる 二つの流れ

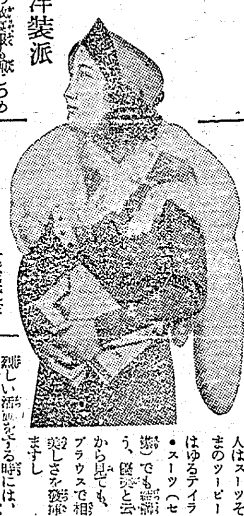
一つは傳統を貴ぶ和服派 一つは便利を喜ぶ洋裝派

和服か 洋服か

興亞の春の新生活運動として實施具體化しつゝある國民服は、背廣に代る男子普通服の原型を決定、全國民に懸賞募集したスタイルを最初の國民服として制定することになりました。つゞいて婦人服裝の研究に移りますが、和洋、古典、近代入り亂れ複雜を極めてゐる婦人服の改革は、これまで何人が企てゝも成功しなかつたものだけに、これに對する世論は區々ですが、結局和服式にするか、洋服式にするかの二つに分れ、現在現れてゐる、各種の改良服も煎じつめると和、洋兩派の對立になり、服裝委員會の婦人委員中でも和洋の色彩が濃厚ですから、來たるべき委員會もこの根本問題をめぐつて相當の波瀾が起ると豫想されます、どうなるかは分りませんが、いづれにしても婦人界に與へる衝動は大きなものがありませう、では婦人國民服はどこへ行くべきか？ 井上秀子女史の御意見を伺ひました。

和服と洋裝の 對立を捨てよ

ツーピースを基礎に 優美さも失はずに



婦人報國服は一般常服であつて活動一せん、男子の背廣服（セビロ）に適し、[illegible]でなければなりま[illegible]、男子のもので[illegible]ら、これと[illegible]かけ離れたものではないのです

和服主義者

の論據は大體二つに分れます 一つは[illegible]立場から、[illegible]誇る[illegible]の和服を亡ぼすのはいけないと云ふもの、今一つは和服が日本の氣候風土に適して今日の[illegible]たもので、衛生上から見ても[illegible]その他多くの長所があり、日本婦人がある限り滅亡しないものだと云ふのです

洋裝主義者

は洋裝が近代生活とはなすことが出來ない存在となつた今日、その能率的な長所を採るのは勿論、近代女性の美しさは洋裝を得て始めて發揮されると主張してゐます。私は和洋二派がせまい觀點で爭ふ事へずもつと大きな觀點から問題を見て欲しいと思ひます

一たい和服

洋服と云ひますが、現在の日本の生活にとけこんでゐる以上、いづれも日本の服裝ですから、いたづらな傳統的觀念にこだはつたり、扁見的な西洋式の面目はやめていたゞきたいものです

私は男子普通服に對する婦人常服は、ツーピース（上衣とスカートに分れた）のスーツ式のものが一番適當だと思ひます これを基礎として考へると

和服からも

ツーピースが出來ますし、洋裝が好きな人はスーツそのまゝのツーピースいはゆるテイラード・スーツ（セビロ服）でも結構でせう、服裝と云ふ點から見ても、帶やブラウスで相當の美しさを發揮出來ますし

烈しい活動をする時には、スカートをくゝつてモンペの樣にしたり、デイヴァイデッド・スカートをはいてもよく、その邊の融通もスムーズにおこなへます 和服を着てゐても、電車の乘降・ビルディングに行つたりしたら

不便な點が

あるのですからスーツ式の服が日本座敷で少々窮屈でも仕方ありますまい

和服や[illegible]に[illegible]ですから[illegible]一たいやうに[illegible]ません

祖國

堀 健吉 作
畠野 奎三 畫

鶴田川 三

・・八九・・

酒のよひに頰を赤くした山下が、この時女中を呼んで、鬪のみだれ箱の中の、トンビを持つて來させた。

なにをするのかと、一同が眼をみはつてゐると、彼はトンビの內ポケットをさがしてなめし皮の札入れをぬきだした。

そしてそこから折目のない新しい百圓札を三枚ひきだして、ヒラヒラと食卓の上におとした。

稲子は口先の冗談だとばかりおもつてゐたのに、案外山下が本氣になつて、惡く執拗いので迷惑らしく美しい眉をひそめた。

「八木君、どうした。好男子しつかりしてくれよ」

と彼はます〳〵面白がるのだ。

「飲みたまへ、決して、毒はいれてないんだから、安心して飲みたまへ、僕もこの通りお毒見してをるんだから大丈夫だ。さあ飲んだ飲んだ」

と、八木[illegible]が稲子のほそい手くびをにぎつて盃を口へ持つてゆくと

「後生ですわ、かんべんして下さいな。あたしお酒はほんとうに飲めないんですから、どうぞ、御勘弁あそばして……」

と、稲子はなさけなささうになき聲となつた。

それを、藝者のコケツトリーだとおもひちがひした山下は

「後生！ 後生ですから御吞みくださいまし……」

と女の聲色をまねして立ちあがつて來た。

そして、やにはに後から女のほそい首をかゝへて無理に盃の酒を口の中へつぎこまうとしたので、彼女の咽喉にまいてゐた白羽二重の布がとけてする〳〵と八木の膝にたれた。

「おや！ なんだ、これは」

と云ひながら、八木がそれをひつぱると、稲子はあわてゝそれをうばひとらうとあせつたが、結局、白布は八木の手におちた。

そして、その瞬間ざこくも八木が目にしたのは稲子の咽喉元にあり〳〵とのこるあさからぬ傷のあとだつた。

「どうしたんだ、その傷あとは」

彼の言葉がおもはず場所柄もわすれてから叫ばせた。

彼女は突差に襟から絹ハンカチをとり出してその傷あとをかくすやうにおさへてゐたが、瞬間狼狽したもののやうに、もう詫びれはしなかつた。

「男に惚れられて、殺されそくなつたのですわ！」

と、勝ちほこる者のやうに云つてのけた。

「いよう！ 無理心中未遂か——」

「あてられるな、どうやら今夜は稲ちやんがおごる番らしいよ。俺の百圓札よ、かわいさうに君にふられたかな」

さう云ひながら、山下はふざけた樣子で札をまた紙入れの中にしまつてしまつた。

「ところで、おのろけついでに、その話をきかせないか」

と八木が云ふと、彼女は二ケ月程前に、ある男につれられて國立ホテルへ遊山をしたが、其晩其處で、無理心中をせまられて、咽喉をきられ死にそくなつたのを、運よくそのホテルにとまりあはせた女醫のためにすくはれたのだと手短かに事の次第を物語つた。

「君は美人だから、これからもあぶないよ、またひよつとして、そんな事があつたら、今度は僕を呼び出してくれ、さうすればすぐに自動車でかけつけてやるよ」

と八木が云ふと、

「ちやあ、あなたはお醫者さんなの」

彼女はたのもしさうに彼の男らしい顏をのぞくのだつた。

「さうだよ。しかも外科のお醫者さんで八木先生と云へば、若い婦人で知らない人はないんだよ。知らぬは君ばかりなりか」

と、山下がやゆした。

春!!! 春ともなれば 蜜豆が欲しくなりますね
美味しい みつ豆
是非!!御試食を……!
フルーツみつ豆・あんみつ豆等御座います。
福壽軒食堂
平 田町 電話 二八番

根本産婦人科醫院
（病室完備）
（隨時入院）
平市南町五二
根本荘次郎
根本貞雄
【電話四三番】

御料理 "むぎとろ"
☒……出前迅速
是非！御試食下さい
さつき
平市田町紅小路
電話四八八番

耳鼻咽喉科專門
大和田醫院
平市南町一六（電話一七〇番）

産婆看護婦 生徒募集
校舍新築
石城産科看護婦學校
校長 鷹崎千代
一、生徒實習室完備 寄宿舍自炊の便あり
一、修業年限一ケ年
新學期開始 四月四日
平市撥槌小路（舊一丁目） 電話三五七番

乘合自動車の 女子車掌至急募集
一、定員 十名
一、資格 十五歳以上十八歳まで 尋卒以上
△採用の上は二週間見習の後本給を支給、但し見習中も手當の外制服を支給す。
△希望の方は午前八時から午後四時まで御出下さい。
平驛前
野崎自動車合資會社
電話三四三 四〇番

花柳病科外科
木村外科醫院
平市六丁目橋際 電話三〇九

三井タクシー
平 二 電話六八五番

銃後の皆樣喜んで御使用になる
糸イラズ
綿布、綿糸、毛絲の折角古き破れた足袋、靴下、メリヤス、シャツ其他何品に依らず活かして御使用出來ますから一家の經濟は勿論ひいては國家の經濟は莫大のものとなりませう 男子の方や御子樣方でも容易に修繕が出來ます 糸や針がなくても立派に仕上りますから此の非常時の場合是非一家に一個御揃へ御使用下さい
定價 20錢 30錢
平市古鍛冶町一〇
阿康藥局
電話四四 振替東京三〇〇六五番

（夜間診療）
胃腸性病
內科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科
專門
松村胃腸性病醫院
平市南町（電話一〇七番）

春物は 是非！ 當店から
（在庫豊富）

玉屋洋品店
平田町通電話六五六番

磐城セメント會社特約店
久
釜屋商店
磐城平市五丁目 電話九・九九
□良品廉賣に勝る商略なし
□確實敏捷は久の生命なり

▽是非！
御融通には御用命下さい 萬事便利な御相談に應じます
公債、債券、質物一般
三井質店
平四 電話六〇六番

市內某醫院
◎至急……有資格經驗ある
看護婦を募集す
月給十四―二十圓給與す
姓名在社

鈴木醫院
平市田町
電話五八番

たひら正宗
山崎合名會社 電話一〇番
芳醇！ 美味！